

# 概 要 報 告

|       |          |
|-------|----------|
| 実施期日  | 8月5日(月)  |
| 部 会 名 | 小学校 算数部会 |

## 神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

## テーマ

### 『見通しと振り返りで、自ら次の一步を踏み出せる子を育てる ～主体的に学習に取り組む態度を育てる算数授業～』

## 提案概要

算数が得意な子も苦手な子も能動的に前向きに学び合えるようになってほしいという願いから、主体的に学習に取り組む態度の育成に着目した。主体的に学習に取り組む態度を育てるには「見通し」と「振り返り」が肝要である。苦手な子でも問題を解く手がかりをつかむことで見通しをもつことができ、能動的に学習に取り組もうとするのではないか。また振り返ることで意識的に自分の努力や学び方を自覚し積み重ねることで自信と意欲が高まるのではないかと考え、実践した。

## ◆見通し

### ① 数学的活動の見通しをもつ

- ・数学的活動（問いを立てる→見通しをもつ→問題を解く→共有する→まとめる→振り返る）を見える化し共有

### ② 単元の見通し

- ・既習事項を確認し、単元間をつなげる
- ・児童ができるようになりたいこと、やってみたいこと等を考え、授業に取り入れる

### ③ 問題解決の見通し

〈問いづくり〉・既習事項との差異に着目、困っていることを共有

- ・「My問い」としてノートに書く  
→数人が発表し、共通点からクラスの問題（本時のめあて）をつくる

〈見通し〉・どの既習事項が使えるか考える時間を設ける→見通しを共有する

- ・思いつかない場合は、ノート（学びの辞書）で振り返る
- ・見通しがもてない子が多い場合は「質問タイム」（自由に動いて質問し合う）

## ◆振り返り

### ① 自立活動：単元末演習

- ・学び方（教科書単元末問題、プリント、デジタルドリル）と相手（「一人で集中」「友だちと協働」「先生に質問」）を選択する・自分が苦手なものを見つけ、考えても分からないことは質問する

### ② 振り返りで学び方に目を向ける

〈1時間の振り返り〉・目的に応じた視点を子どもに示すことが重要

〈単元の振り返り〉

- ・テスト実施後にテスト分析をして原因（うっかりミス、問題文読み間違い、分からなかった、その他）と対策を具体的に考える・前回の振り返りを読み本単元に生かしていたかを確認する
- ・内容が良い振り返りを全体に紹介して価値観を広げる・授業改善に生かす

〈学期末の振り返り〉

- ・その学期に学習したことを教科書を見て振り返り、自分のノートの考えや振り返りを見返す
- ・頑張ったこと、成長したこと、生活や学習に生かしたことを視点として振り返る
- ・次の学期に頑張りたいことも書く

## 質疑応答

『質問タイム』では、分かっている子が一方的に教えてしまわないか。

分かる子が教えるのではなく、分からない子が質問をするようにしている。受け身の姿勢ではなく、能動的になってほしいから、自分で自分の分からないことを自覚し、分かるようになるための手立てを身

につけられるようにという意図がある。

## 書くことが苦手な子にはどのような支援をしているのか

書いたことをB、A、AA、AAA、S、SSと上限がないように評価をあげていくことで努力をすると児童の意欲が高まった。どこがよかったかの視点を明らかにしてあげると、どう書けばいいかコツをつかんでどんどん書くことが上達していく。

### 協議の柱及び協議概要

協議の柱 「見通し」と「振り返り」

### 協議の概要

#### ◆見通しをもたせるための手立て

##### ○単元全体を見通す工夫

- ・特に中学校では「学びのプラン」を生徒に配布し、単元計画、身につけてほしい力、小テストのタイミング、評価の仕方を示している
- ・ゴールを見せることで見通しをもつことができる

##### ○本時の見通しをもつ工夫

- ・1時間の授業のめあてと流れを板書する
- ・情報を整理させ、着眼点を与える
- ・答えの見当をつけさせる
- ・板書にヒントや手立てを示す

##### ○既習事項の確認

- ・前時の復習から始める
- ・問題からどの既習事項が使えるか考えさせる
- ・既習事項との比較をし、違いを明らかにする
- ・導入で既習事項の問題を出し、その後レベルを上げて本時の問題へ

#### ◆振り返りは何のために行うのか

##### ○児童・生徒にとって

- ・学びの整理…何を知ったか、学んだか、できるようになったか、何がわからなかったか
- ・自分と向き合う、自分を知ることでメタ認知につながる
- ・自己調整のため。自主学习につながる

##### ○教師にとって

- ・学力の定着を確かめ、次時の指導に生かす（授業改善）
- ・児童理解
- ・評価、評定のため…主体性の評価

##### ○振り返りの難しさ

- ・子どもたちの文章力に差がありすぎる（面談テストを行っている学校もあり）
- ・教師側が振り返りの必要性や大切さをわかっているのか
- ・低学年では記述の振り返りが難しい
- ・ただの感想になってしまう
- ・成績に反映するのが難しい

### まとめ概要

学習指導要領に「見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる主体的な学び」と書かれていることから、主体的な学びを育むために「見通し」と「振り返り」は切り離すことができない学習活動であり、「自己の学習活動を振り返って」ということに注目すると、振り返りをするのが主体性につながる第一歩と読みとることができる。今回の実践で良かった点は3つある。

- ・**児童の実態把握** 算数が苦手な子、得意な子両方についてしっかりと比較分析をしている。
- ・**振り返りの視点を子どもに示す**

振り返りを書くことの意味を伝えることが大切である。伝わっていないと書かなければいけない義務感につながってしまう。子ども自身が振り返りの良さを実感できるような配慮をするとよい。

- ・**振り返りに対する教師のコメント**

次の支援につながるコメントをしたり、児童のコメントを価値づけたりされていた。児童が学びを通して自分のことを客観視し、自分の学びの変容を自覚できていることがこの実践の成果である。振り返りを行う時には、書くことだけにとらわれず、また振り返りが目的にならないように配慮してもらいたい。